

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 141-8640
 住 所 東京都東五反田2-18-1
 氏 名 メビウスパッケージング株式会社
 代表取締役社長 坂崎 博明 印
 代理人 川崎工場長 中村 年秀
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	メビウスパッケージング株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区浮島町11-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	18	プラスチック製品製造業(別掲を除く)
主たる事業 の内容	プラスチック容器製造販売		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		10,354 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	環境活動の取り組みについてはホームページにて公表しています。 https://www.mebius-pkg.co.jp/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

基本方針

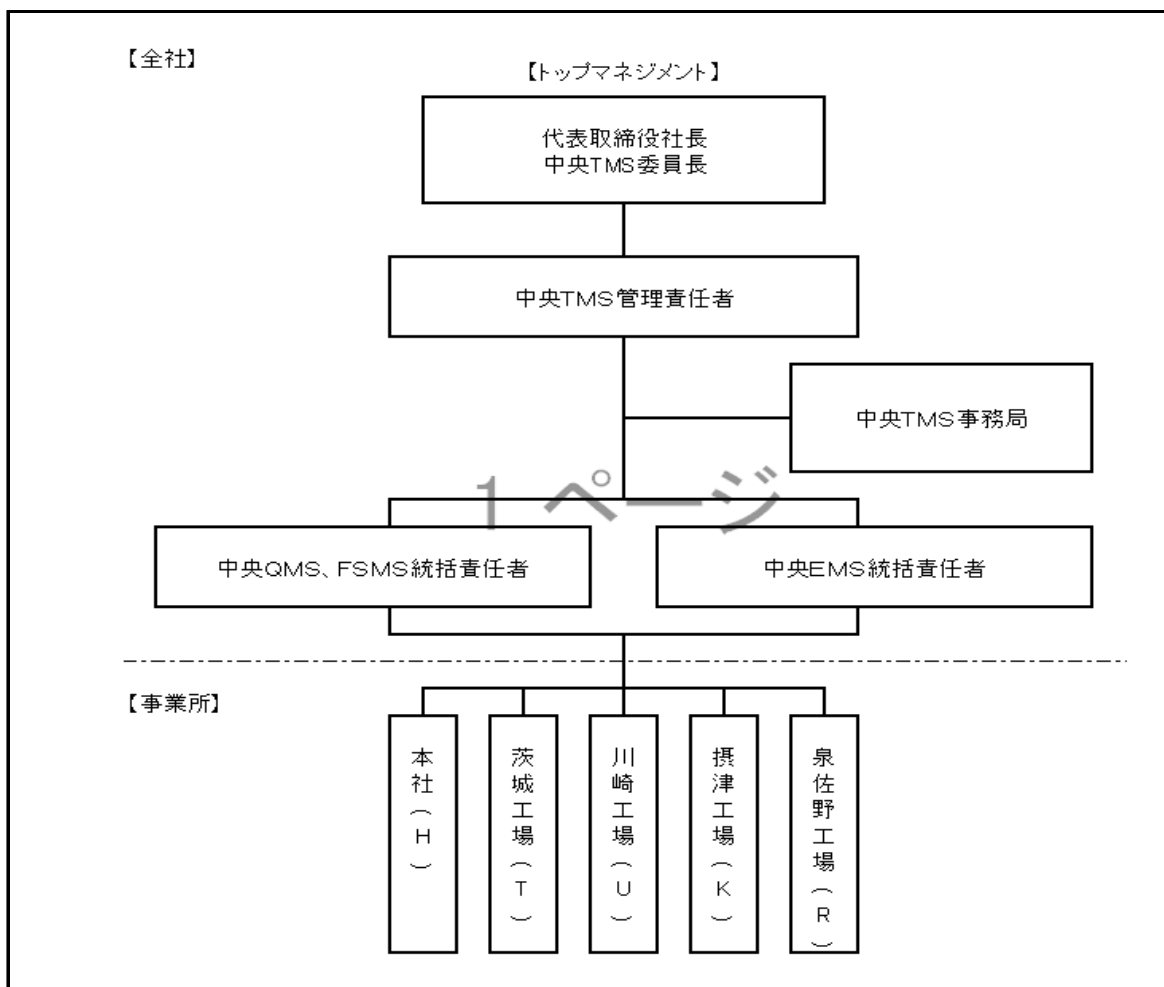
- (1) お客様の要求・期待に応える、高品質な製品・サービスをお届けします。
- (2) 当社の全ての活動において、環境負荷の低減と環境汚染の防止に努めます。
- (3) ステークホルダーとの誠実・適切なコミュニケーションを行い、品質・環境・食品安全の継続的な改善と向上を進めます。
- (4) 関連する法令とお客様との契約を順守します。
- (5) 従業員の個性や挑戦意欲を尊重し、働きがいを感じられる会社を目指します。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

事業活動に於いて、個々の条件の下で環境に対する運用が確実に行われるように、その環境方針、環境目的・目標に整合して特定された著しい環境側面に伴う運用を明確にし、計画する。詳細は「EMM-880 環境実務規定」にて定め、実施し、維持する。

- a) 環境方針並びに目的及び目標から逸脱するかもしれない状況を想定し管理するために、“文書化された手順”を確立し、実施し、維持する。
- b) 手順には運用基準を明記する。
- c) 当社が用いる物品及びサービスの特定された著しい環境側面に関する手順を確立し、実施し、維持すること、並びに請負者を含めて、供給者に適用可能な手順及び要求事項を伝達する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2021				年度
目標	年度	2024				年度
基準	排出量	(実)	18,677	(実)		
		(調)	18,512 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	18,097	(実)		
		(調)	18,097 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	580 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	580 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.1 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量					
原単位の単位					
基準年度の値					
目標年度の値					
削減率				% %	

ウ 目標設定に関する説明

メビウスパッケージング株式会社が属する東洋製罐グループでは、低炭素社会の実現に貢献するために2030年度までに事業活動での生産重量あたりCO₂排出量を50%削減する中期目標を掲げています。

川崎工場では、省エネルギー活動を軸に、エアリーク改善などの是正や新規設備の導入によるエネルギー使用の効率化など推進しており、エネルギー費削減では、毎年年間5,000千円削減目標を立てております。これらの省エネルギー活動による効果はCO₂換算で、2022～2024年の期間で580t-CO₂削減と試算しており、この値をCO₂削減の目標と致しました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

東洋製罐グループでは、固有技術の結集と世界の技術の活用により、私たちが提供する製品・サービス・システムのバリューチェーンにおいて、3つの側面から持続可能な社会の実現に貢献します。

●脱炭素社会 ●資源循環社会 ●自然共生社会

2050年長期目標

(1) CO₂排出量を大幅に削減し、カーボンニュートラルの実現を目指します。

(2) 新規投入資源の使用量を削減し、再生材や再生可能材料への代替に努めます。

(3) 製品・サービスのライフサイクルを考慮しつつ、地球上の生物や人類が永続的に共生できる社会の実現に貢献します。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>○生産活動の効率化 生産開始と停止の手順を明確化し、訓練することで、不良品率低減させ、これに掛かるエネルギーを削減する。 ○毎月省エネ巡回の実施 生産現場で無駄を見つけ改善を進める ・エアーの拭きっぱなしや洩れ ・コンベヤやブロワーの空運転 ・照明のつけっぱなし ○生産設備及びユーティリティ設備並びに空調機機器更新による高効率化 ・トランス更新 ・押出機モーター更新 ・冷凍機更新 ・空調機更新</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>○第二工場屋上吸収式冷凍機→空冷式モジュールチラーへ更新 (2022年度) ○事務棟更衣室及び第二工場厚生室空調機更新 (2021年度) ○第一工場工業用水ポンプ (18.5kw×3台) を30kwインバータポンプ1台に更新 (2020年度) ○押出機駆動モーターの更新 (ECモーターからベクトルインバーター) (2019年~2021年度) ○受変電設備トランス更新 (2021年度)</p>
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	○製品輸送の直行化(デポを使用せず、自工場から直接得意先へ)
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	○グリーン購入推進 ○廃棄物の分別と減量化を図る ○コピー用紙の購入抑制(裏印刷再利用推進)
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	18,677	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

10,354	K L
--------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
メビウスパッケージング株式会社 川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浮島町 1 1-1	18,677 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂